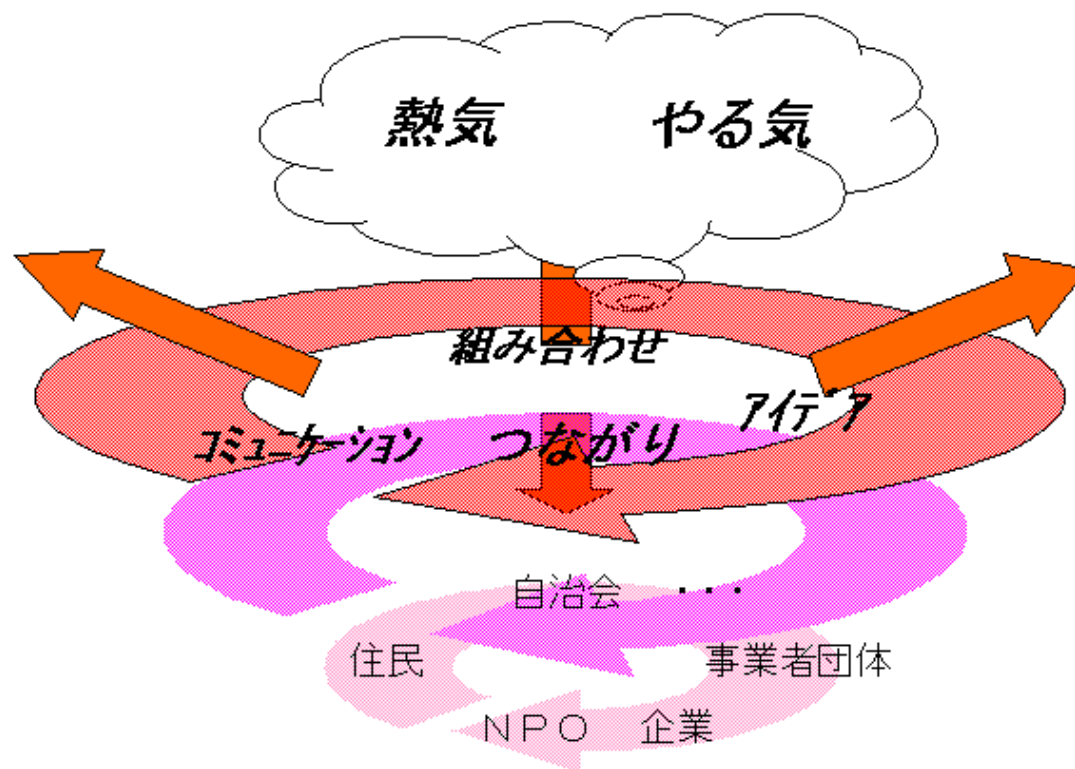


5 . 戦略的地域経営の要素

多様な主体による地域づくりが生み出す地域力

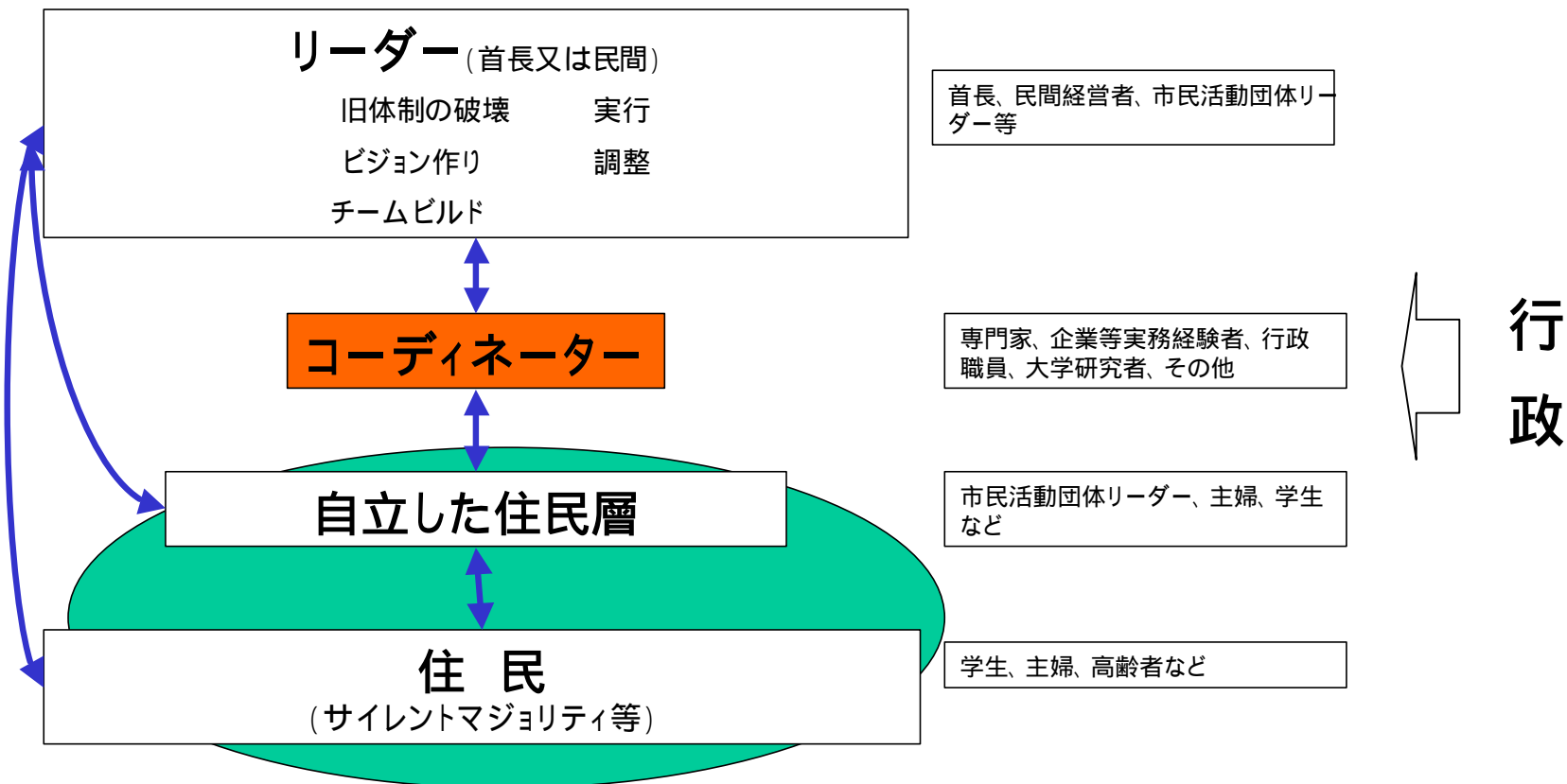


- 自立した住民層
- 地域づくりのキーパーソン = コーディネーター
- 地域リーダー
- プラットフォーム
- 黒子役の行政
- 徹底かつ弛まない情報共有

ウォールナッツ通り橋の保存運動 (アメリカ・チャタヌーガ市)

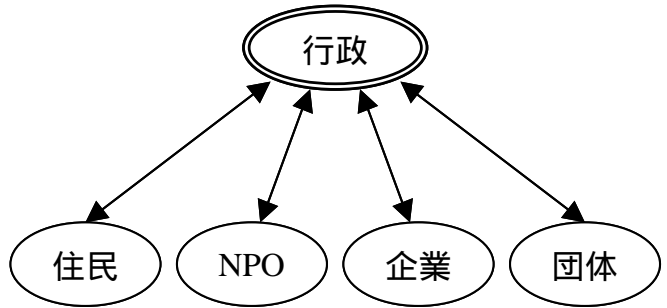


多様な主体間の関係



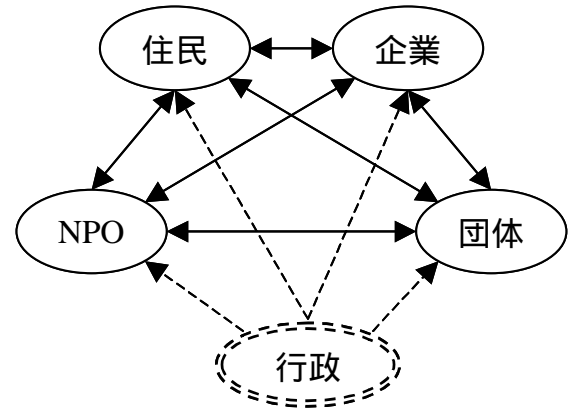
行政の役割

これまで



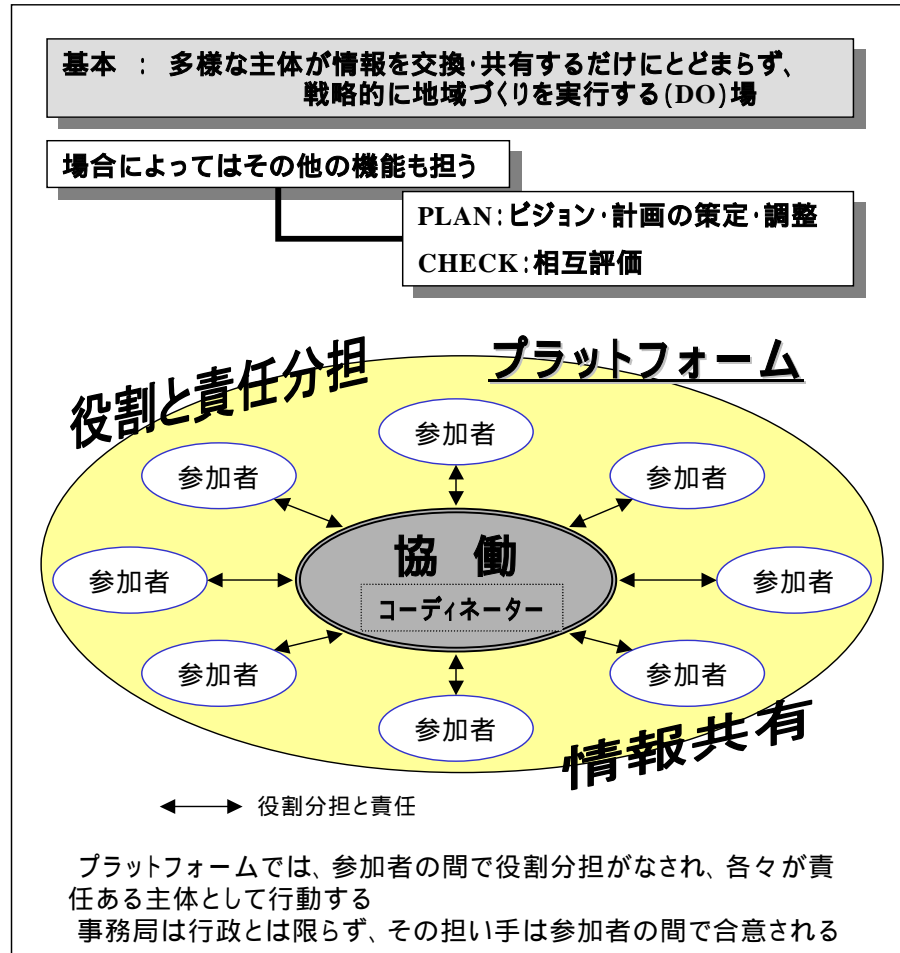
行政が、多様な主体の意見を聞き、各方面の調整を行い、最終的に行政が実行する。

これから



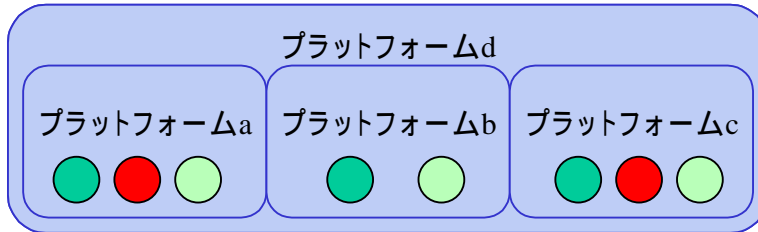
多様な主体がそれぞれ意見を出し合い、ダイレクトに相互調整を図り、自ら実行していく。行政は、必要に応じて全体あるいは個々の主体を支援していく「黒子」となる。

プラットフォームのイメージ図

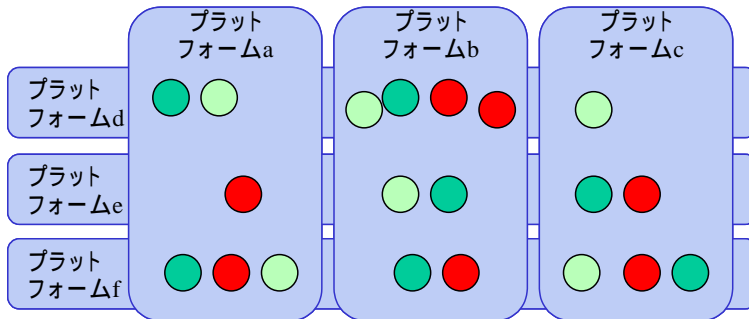


プラットフォームの類型

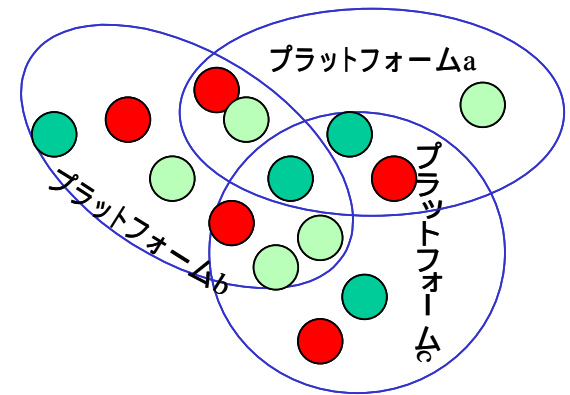
< 階層型 >



< マトリックス型 >



< 複合型 >



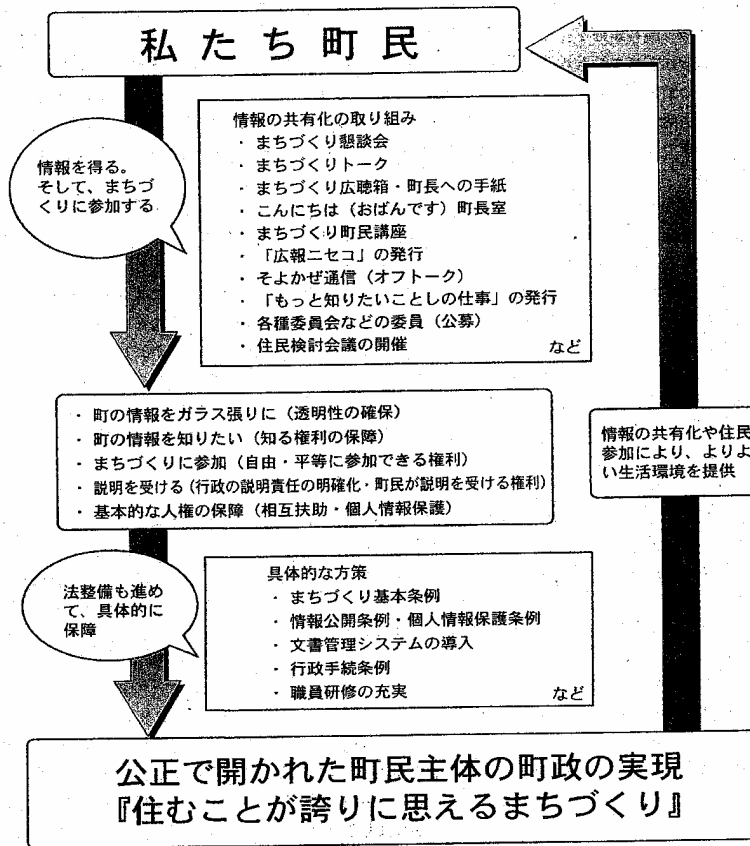
類型毎のメリット・デメリット

類型	メリット	デメリット
階層型 (地域の積み上げ型)	<p>地域ごとの特徴が出せる 地域に自治組織が既に存在するのでプラットフォームを構成しやすい など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォームが扱うテーマによって、参加者の間に 関心度合いに温度差ができやすく、それが参加者の増減に響いてきてしまう ・ 地域を超えたテーマを受け入れ難い など
マトリクス型 (地域とテーマのマトリクス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ志向でありながらも地域開放性を有すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のくくり方によって住民間のまとまりを生まなくなる可能性のあること ・ 地域によっては参加者が少なすぎるといった偏りが生じる
複合型 (多種多様なプラットフォーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機動性や柔軟性を持ち、地域のあるいは地域を超えた様々な課題に対応していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム間の整合性をとったり、共通の関心や価値の共有といった求心力を確保していくことが難しい

情報提供手法の分類

	一方向	双方向
受動的（消極的）	財政指標を単に羅列した広報誌の配布	住民が集まるのを待つ説明会、ワークショップ
能動的（積極的）	財政指標の読み方も含めて解説する予算書の配布（二セコ町の「もっと知りたいことしの仕事」）	住民の集まりなど行政側が参加して説明し、逆に市民から提案を受ける会合（二セコ町「まちづくりトーク」、掛川市「市民総代会」、太田市「縁台トーク」）

情報共有の位置付け(ニセコ町)

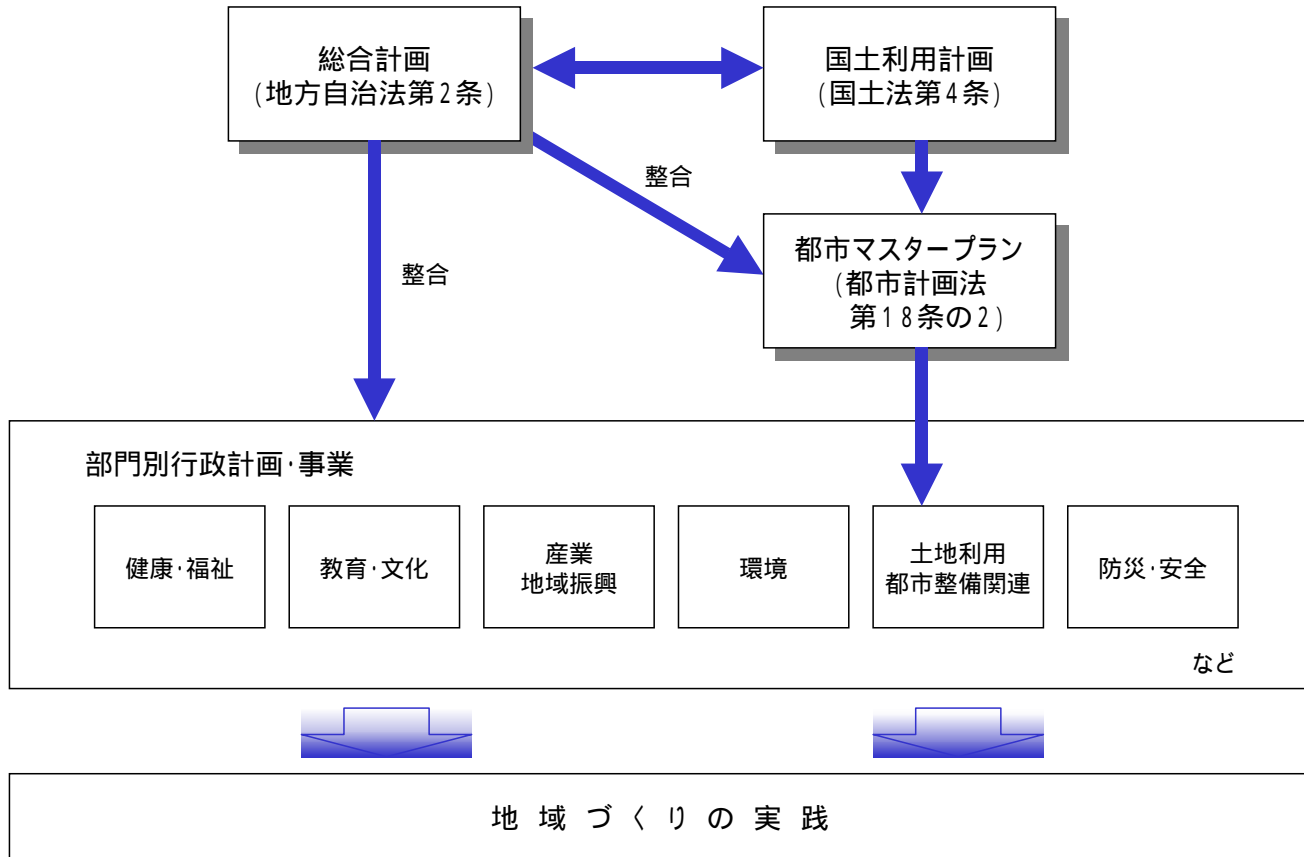


(注) ニセコ町「広報ニセコ」2001年10月号より

6 . 今後の課題

- **地域の事情にあわせた法律や補助金**
 - 包括性をもった交付金制度、地域提案の活用
 - 公益性の見直し
- **条例の積極的活用**
- **受益と負担の関係の明確化**
 - 地方税の納付先の選択制
 - 環境、食料供給価値のトランスファー制度
- **各種計画の整合性、戦略統合化**
- **多様な主体と議会の関係**
- **地域自治組織の可能性**
(自治組織の民主化・国際化)

地域づくり計画の戦略化



自治組織の民主化(鳥取県智頭町)

